

命絶ち声なき抗議

で増大した仕事に追われ、上司からは度重なる叱責(しっせき)を受け職場で自ら命を絶った。「法律で歯止めをかけざるを得ない世の中が悲しい」と遺族は胸の内を明かす。

過労死や過労自殺の抑止を国の責務と定めた過労死等防止対策推進法＝**法**＝が、先の通常国会で成立した。福島県の20代男性は成立を前に2012年秋、東日本大震災からの復興需要

福島・20代男性 過重労働の果てに…

震災需要 残業月100時間

「死ね」上司がパワハラ

男性の車が自宅に大切に保管されている。息子の愛を通じて男性の死を知らされた。眠るような穏やかな。「昔から車好き。責任感の強い、シャイな性格の子だった」

母親は悔やむ。「『会社の抗議だった。真相を明らかにし、会社の責任を問いたい』と言っただければよかった」。13年夏、両親は労働を辞めたいなら辞めればよかった。13年夏、両親は労働を辞めたいなら辞めればよかった。13年夏、両親は労働を辞めたいなら辞めればよかった。

「息子にとっては命懸けの抗議だった。真相を明らかにし、会社の責任を問いたい」。13年夏、両親は労働を辞めたいなら辞めればよかった。13年夏、両親は労働を辞めたいなら辞めればよかった。

こぢんまりとした職場で男性性は最も若く、修理依頼への対応を一人で担当した。震災後、復旧復興事業に伴い重機の需要が高まり、12年夏以降は1カ月当たりの残業が100時間を超えた。

「死ね」上司がパワハラ。の厳しい指導はあったが、どうも。若い世代を取り巻く状況は深刻だ。内閣府の14年版「過労死防止法の成立は、過労死や過労自殺のない社会を実現するための一歩。国を挙げた具体的な取り組みが欠かせない」と訴える。

過労死等防止対策推進法。過労死や過労自殺の防止を理念に掲げた初の法律。過労死など「業務の過重な負担による脳・心臓疾患を原因とする死」や、

強い心理的負担による精神障害を原因とする自殺」など定義。国が取るべき主な対策として①過労死などの実態調査、研究②国民への啓発③産業医の研修など相談体



「死ね」と指摘して「約3カ月後に78人と、1センターでは26人が言い止